

アカボシゴマダラ 分布拡大か

年 組 名前

特定外来生物に指定されている「アカボシゴマダラ」の成虫が塩尻市で見つかりました。たった1匹の発見でもニュースになるのはなぜか、記事を読んで考えてみましょう。

① 特定外来生物を指定しているのは、何省ですか。

原産—

体の特徴—

③ アカボシゴマダラが県内で初めて確認されたのは、いつ、どこですか。

いつ—

どこで—

④ アカボシゴマダラが日本に生息することで、何が懸念されますか。

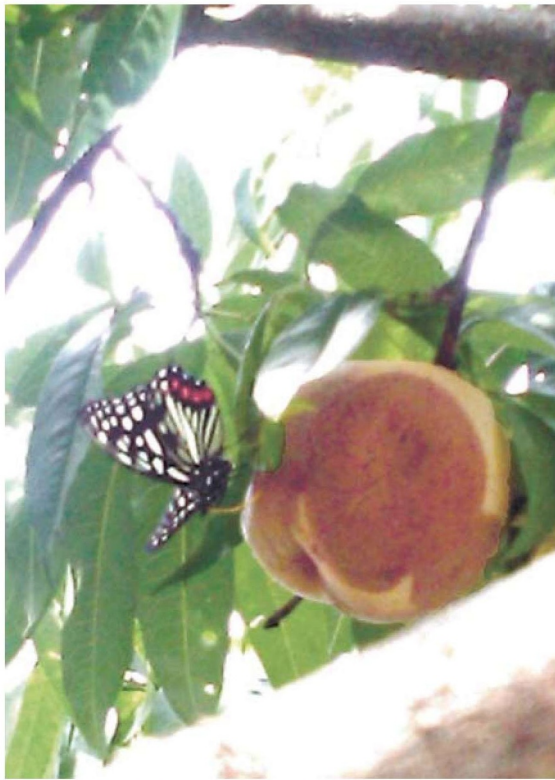
⑤ アカボシゴマダラの他の、特定外来生物を調べてみましょう。また、問い①の省が特定外来生物を指定する理由についても、調べてみましょう。

特定外来生物 中信地方でも分布拡大か

アカボシゴマダラ 塩尻でも確認

環境省が特定外来生物に指定している中国原産のチョウ「アカボシゴマダラ」の成虫1匹を、塩尻市宗賀の小学校教員上條淳男さん(62)が自宅近くで見つけた。県内では2014年に初めて軽井沢町で確認され、近年は中信地方で相次いで見つかっている。チョウに詳しい三郷昆虫クラブの那須野雅好さん(61)は安曇野市によると、昨年以降、松本市でも確認事例があり、中信地方でも分布が拡大しているとみられる。

タテハチョウ科のアカボシゴマダラは、羽に特徴的な赤い斑点がある。上條さんは今年11日午前、栽培する桃の実に飛来した個体を見つけて、撮影した。写真を見てアカボシゴマダラと確



桃畑を飛ぶアカボシゴマダラ
＝11日(上條淳男さん撮影)

認した日本鱗翅学会信越支部長の井原道夫さん(81)は飯田市によると、昨秋に伊那、駒ヶ根市、箕輪町などで成虫が見つかっている。那須野さんによると、昨年9月に松本市梓川、今年7月に同市中山で成虫を見つけたとの報告がある。

アカボシゴマダラの幼虫はエノキの葉を好むため、食草が同じ在来種のゴマダラチョウやオムラサキとの競合が懸念されている。井原さんは「今のところアカボシゴマダラが既存の生態系に影響を与えているとは評価できないが、引き続き目撃例を集める必要がある」と指摘。在来種のチョウの保護には「田畑や林など里山の環境を維持することが有効だ」と話している。

(2021年8月20日朝刊・地域面〈中信〉)

アカボシゴマダラ 分布拡大か

解答例

年 組 名前

特定外来生物に指定されている「アカボシゴマダラ」の成虫が塩尻市で見つかりました。たった1匹の発見でもニュースになるのはなぜか、記事を読んで考えてみましょう。

① 特定外来生物を指定しているのは、何省ですか。

【解答】 環境省

② 特定外来生物に指定されているアカボシゴマダラは、どの国の原産ですか。また、体にどんな特徴がありますか。

原産— 中国

体の特徴— 羽に特徴的な赤い斑点がある

③ アカボシゴマダラが県内で初めて確認されたのは、いつ、どこですか。

いつ— 2014年

どこで— 軽井沢町

④ アカボシゴマダラが日本に生息することで、何が懸念されますか。

【解答】 (アカボシゴマダラの幼虫はエノキの葉を好むため、) 食草が同じ在来種のゴマダラチョウやオオムラサキとの競合

⑤ アカボシゴマダラの他の、特定外来生物を調べてみましょう。また、問い①の省が特定外来生物を指定する理由についても、調べてみましょう。

【解答】 略